

◆令和2年(2020年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 <sup>1</sup> 熊本の暮らしを支える	取組の方向性	1 全県域を対象としたサービスの提供	(1) 市町村立図書館等との連携 (2) 市町村立図書館等への支援
		2 生活や仕事に役立つサービスの提供	(1) 県民や地域の課題解決への支援 (2) 関係機関等との連携

令和2年(2020年)度の取組

重点取組事項	年度当初の計画			年度末の総括	
	具体的事業と実践内容	【目標】	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
① 全県域への資料の提供	○配本協力、貸出文庫の更なる活用の推進 【1】配本協力、貸出文庫の貸出対象の拡大 関係市町村を訪問し、市町村立図書館や学校図書館等における団体貸出の利用拡大の働きかけを行い、全県域における充実した資料の提供を図る。 【2】配本等の利用促進のための周知強化 昨年度作成した周知のためのチラシを各学校へのメールアドレスに送信し更なる周知を図る。また、関係市町村教育委員会等に対しても利用促進について案内を行い利用団体を増やす。 【案内の実施】	【2箇所】	・年度内  ・6月まで	・令和3年1月13日よりインターネット予約貸出サービスを開始。新たに熊本市の図書館及び公民館図書室等(計22館)においてWeb予約による当館資料の受取、及び返却が可能となった。 ・臨時休館中に予約による貸出・郵送での貸出を実施した。 ・外部からの貸出に係る相談があった際、一括貸出等について詳しく案内を行い、新規に未利用の小学校2校への子ども文庫利用、及び県環境センターへの一括貸出があった。 ・芦北町内の全小中学校にチラシを配布。	・熊本市と連携を深めつつ、他の県内市町村との連携を進め、遠隔地での当館資料の受取・返却ができる対象の図書館を増やす。 ・特に来館して貸出を行う『一括貸出事業』と『子ども文庫事業』利用案内について、ホームページでの周知を引き続き行うとともに、直接メール送信等を行い、利用拡大を図る。
② 市町村立図書館等への支援	○ 市町村立図書館等との情報の共有促進、連携強化 【1】巡回訪問研修の回数を増加 昨年度まで行っていた巡回訪問研修を年2回の開催から、年3回の開催にする。 【年2回 → 年3回】 【2】他館参加型の県立図書館内研修の拡充 県立図書館の館内研修への参加を各市町村等の方々に呼びかける研修を年3回行い、その際の研修資料の公開を当館HPにて研修実施後に公開する。 【年3回】 【3】市町村立図書館・学校図書館などへのアンケートの実施 市町村立図書館や学校図書館などに、熊本県立図書館に何を求めているかのアンケートを行い、今後の活動に生かす。 【実施】	【年3回】	・7月、9月、2月  ・年3回  ・8月予定	・巡回訪問、館内研修は新型コロナウイルス感染症対策のため未実施 ・7/4の豪雨災害により水損した芦北町教育委員会の所蔵古文書230点及び図書館資料(郷土資料を中心に167冊)、をレスキューし、カビ処理、クリーニング、修理等の処置を実施した。(約70%を終了。来年度上期まで継続予定。) ・被災した芦北町立図書館への支援として、配本協力事業の資料を活用し、芦北町内に芦北町臨時図書館を設置・運営し、資料の貸出を行った。また、支援図書として2,684千円の予算を獲得し、新たに1,708冊の図書を購入し貸出資料として活用した。なお、芦北町臨時図書館閉館後、配置していた資料は、被災により蔵書数が大幅に減少した芦北町立図書館に約5,000冊の一括貸出を行った。さらに芦北町立図書館への全国からの寄贈資料の受付を当館で行った。 ・7月上旬に市町村立図書館向けのアンケートを実施。24館、129名分の回答をいただいた。	・巡回訪問は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実施。実施できない場合は資料配布やインターネット等で対応。 ・今後、芦北町教委により所蔵資料のメンテナンス作業が実施される見込みのため、当館での作業終了後も、引き続き技術的支援を行うことが必要。また、今回の芦北町立図書館への支援の経験を、今後、県内の市町村立図書館が被災した場合の支援に活かす。 ・次年度も、市町村立図書館向けのアンケートを実施。次年度はインターネット上で回答できるように検討。
③ 資料や各種サービス等の周知と利用の拡大	○ 資料や各種サービスの周知 【1】10代に向けたサービスの充実 10代をはじめとした若年層の閲覧室資料利用周知のため、若者向けリーフレット等を作成、また、YA向けのミニ展示コーナーを作成する。【作成および更新】	【作成および更新】	・随時	・YAコーナー資料の再配置により、第1閲覧室入口正面に空きスペースを確保し、YAコーナーの利用拡大に向け、職員によるおすすめの本等の展示を毎月に行った。 ・YAコーナー資料充実のため、「YA朝の読書ブックガイド2020」「科学道100冊」「若い人に贈る読書のすすめ2021」といった資料ガイドも活用し、選書を行った。	・当館から離れた地域に居住する県民に向けた利用案内やサービス内容の周知。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

☆評価について☆

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2020年度の目標値	2020年度の実績	達成率	評価
総合的な満足度	73%	80%	79%	81%	102.5%	S
相互貸借の貸出冊数	1,379冊	1,500冊	1,445冊	1,333冊	92.2%	A
相互貸借の市町村カバー率	44.4%	60%	52%	42%	80.7%	A
団体貸出の利用件数・貸出冊数	115件 27,633冊	130件 30,000冊	121件 28,580冊	61件 19,600冊	50% 68%	C B
研修会の実施回数・参加者数	8回 450人	16回 800人	12回 577人	1回 40人	8.3% 6.9%	C C

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%)
B	達成率60%~79%)
C	達成率60%未満

◆令和2年(2020年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 <sup>2</sup>	熊本の学びを支える	取組の方向性	1 熊本で学ぶ人に役立つサービスの充実	(1) 「調べる図書館」としての機能の強化 (2) 学びの場や学びを共有する機会の提供	
			2 熊本を学ぶ人に役立つサービスの充実	(1) 熊本に関する資料や情報の充実 (2) 熊本に関する資料や情報の提供と発信	
令和2年(2020年)度の取組					
重点取組事項	年度当初の計画		年度末の総括		
	具体的事業と実践内容	[ 目標 ]	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
①調べる活動の支援	○ 県立図書館の資料や機能の周知の徹底 【1】データベースの利用促進のためのミニ講座の開催 希望者に向けてデータベースの使い方を支援するミニ講座を開催する。 【開催】 【2】県立図書館の資料を紹介する活動の充実 行事や展示等に合わせ、県立図書館所蔵の本を紹介する冊子等の作成、または、ブックトーク等のイベントを開催する 【年間で合わせて3回】		・随時 ・行事や展示にあわせ随時	・新型コロナウイルス感染拡大防止への対応により、開催できていない。 ・開架書架毎にある請求記号や分類の表示を見やすくわかりやすいものに(文学作品の著者名の表示等) 取替を行った。 ・くまもと文学・歴史館の展示に合わせて、関係する当館資料を展示し、その資料リストを作成、配付した。 ・10/10(土)文歴ギャラリートーク時にブックトーク実施	・新型コロナウイルス感染拡大防止の状況を見ながら、ミニ講座開催に向けて検討。 ・今後もわかりやすい表示を心がける。 ・文歴ギャラリートーク時に関連図書のブックトークを実施する。
②レファレンスの充実	○閲覧室内利用者への利用案内 【1】閲覧室内の掲示物の見直し レファレンスの利用に関する掲示や配付物の見直し等を行う 【改善】 【2】希望者に向けたレファレンスガイダンスの実施 希望者に向け、レファレンスとは何か、どのように行えばいいのかを説明するガイダンスを開催する。 【実施】		・随時 ・今年度中	・閲覧機のデスクマットにレファレンス等に係る掲示を行った。 ・開架書架毎にある請求記号や分類の表示を見やすくわかりやすいものに(文学作品の著者名の表示等) 取替を行った。(再掲) ・新型コロナウイルス感染拡大防止への対応により、ガイダンスを実施できていない。	・レファレンス啓発のポスター掲示。 ・レファレンスガイダンス(新聞、雑誌の調べ方等)の実施 ・レファレンス資料の充実 ・レファレンスを円滑に行うためのデータ修正
	○レファレンスの利用促進 【1】レファレンス関連サイトの紹介 各種研修で当館へ来館される図書館職員へレファレンス協同データベースのサイト等の周知を行う。 【実施】 【2】レファレンス資料の充実 レファレンス用参考図書の積極的な収集と他館へ所蔵資料の周知を行う。 【実施】		・通年 ・通年	・新型コロナウイルス感染防止への対応により、研修を開催できていない。 ・レファレンス資料について、不足する分野を中心に計画的に購入を進めた。	・レファレンスサービスの利用者や他の図書館等を含めた周知 ・古文書目録をホームページで公開。(利用の多いものから順次公開する)
③インターネット等を活用した情報の提供	○ホームページへのアクセス向上 【1】スマートフォンでのホームページ活用の利便性向上 スマートフォンから接続した場合の初期画面をPC版に変更する。 【変更】		・上半期まで	・当館ホームページは、PC及びスマートフォンからのアクセスが99.9%となっており、従来型携帯(フィーチャー・フォン)からのアクセスは0.1%となっている。携帯電話用HPの操作性改善を行った。	・さらに使いやすいホームページの運用方法について分析を進める。
	○レファレンス情報の提供 【1】レファレンス事例の紹介 レファレンス協同データベースに公開事例を上げ、HPやツイッターで紹介する。 【100件以上】		・通年	・10月17日に48件、1月以降に80件、併せて128件のレファレンス事例をレファ協に公開した。	・年2回レファ協へレファレンス事例を公開し、実績を紹介する。
④熊本に関する資料や情報の充実	○熊本に関する資料や情報の収集や提供の充実 【1】郷土関係出版物展の開催 郷土関係出版物展を通し熊本に関する資料の情報提供を図る。 【400人来場】		・3月	・令和2年3/6～3/26実施。(令和元年度分—新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期) ・熊日出版文化賞候補作展示及び郷土に関する出版物(令和2年発行)の展示を実施。 ・熊本の地誌に関する古文書(7点)購入。	・2021年夏頃にコロナ感染症の状況を見て郷土出版物展を実施予定。(令和2年度分) ・熊本に関する貴重な古文書の収集。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2020年度の目標値	2020年度の実績	達成率	評価
レファレンスの件数	6,992件	18,000件	14,500件	11,193件	77%	B
レファレンスの満足度	65%	80%	79%	93%	117.7%	S
ホームページのアクセス数	156,950件	250,000件	194,170件	420,205件	183.0%	S
当館利用団体等による発表会の実施回数	0回	10回	4回	0回	0%	C

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%～99%)
B	達成率60%～79%)
C	達成率60%未満

◆令和2年(2020年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 <sup>3</sup> 熊本の文化を発信する	取組の方向性	1 熊本の文化を守る取組の充実	(1) 館内資料の保存 (2) 館外資料の保存
		2 熊本の文化を発信する取組の充実	(1) くまもと文学・歴史館との連携による情報発信 (2) 多様な方法を駆使した情報の発信

令和2年(2020年)度の取組

重点取組事項	年度当初の計画		年度末の総括		
	具体的事業と実践内容	[ 目標 ]	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
① 貴重資料等の修理・修復の推進	○館内資料保存のための環境維持改善活動 【1】 県立図書館職員による資料保存管理の徹底 昆虫トラップ調査の実施や、館内の清掃管理の徹底により、資料保存のための環境づくりに取り組む。 【実施】		・通年	・害虫トラップ調査を4月24日～5月15日、7月30日～8月20日、10月15日～11月5日の3回実施し、資料保存環境の改善につなげたほか、館内の燻蒸箇所の選定にも役立てた。また、館内職員向けに、啓発資料「害虫トラップ調査で見かける害虫まとめ」を作成し各部署に配布した。	・次年度も年3回の害虫トラップ調査ほかの環境調査を実施し、資料保存環境の改善を行う。また、館内外を意識した啓発活動についても考慮していく。
	○貴重資料等の修理・修復 【1】 専門機関による貴重資料等の修理・修復の実施 貴重資料に対しては、優先順位の高いものから外部専門機関に委託し、修理修復を行う。また、修理修復が完了した資料の撮影、高細密な画像を作製する 【5点】		・通年	・西南戦争戦跡図5点の修理と撮影の業務委託を実施した。修理完了後は文学歴史館で展示に活用。データはホームページで公開し利用者に提供。	・トラップ調査結果に基づいた清掃活動の実施。 ・寄贈資料持ち込みの際の消毒の徹底。
	○貴重資料等の保存管理に関する知識・技能の向上と人材の育成・確保 【1】 「図書館資料保存のための維持管理行為に係る研修指導業務」の実施 【館内研修8回 公開研修1回】 【2】 県立図書館職員による貴重資料等のクリーニング・補修の実施 県立図書館職員で対応できる修理・修復に関しては積極的に進んでいく。 【古文書10点 古地図5点】		・通年 ・通年	・技術者による維持管理行為に係る研修—8回実施。 古文書10点の維持管理行為 地図11点の修理を実施した。 ・職員研修(11月27日実施) 参加者40名 近世文書の保存と管理・修理についての講演と和綴じ用こより作りと和綴じの実習を行った。	
② 貴重資料等のデジタル化と提供	○文化的に価値の高い貴重資料等の保存と提供の推進 【1】 貴重資料等のデジタル化 【205点】 【2】 デジタル化資料のホームページへの掲載 【125点】 【3】 貴重資料等の複本の作製 【50点】		・通年	・【1】 貴重資料等のデジタル化は【100点】 【2】 デジタル化資料のホームページへの掲載は【87点】 【3】 貴重資料等の複本の作製は【7点】だった。 ・貴重資料(古文書)の啓発とHP及びデジタルアーカイブの利用促進のため、インターンシップの学生へミニ講座実施(3回)	・貴重資料のデジタル化、ホームページへの公開、複製資料の作製については継続して実施。 ・古文書ミニ講座(職員向き・利用者向き)の実施 ・研修等による職員の技術取得及び向上を図り、計画的なデジタル化の作業を進めていく。 ・情報支援課で資料のデジタル化のチームを作り継続的に実施する。
	○資料のデジタル化や古文書整理等を行うための人材の育成・確保 【1】 資料のデジタル化等に関する研修等の実施 各課、各班のデジタル化やホームページへの掲載等に係る情報共有や推進に向けた研修等を定期的実施する。 【実施】		・通年	・資料のデジタル化、ホームページ掲載までの一連の作業をマニュアル化。 ・担当者へのマニュアル配布と研修の実施(撮影・スキャニング・画像編集)	
③ くまもと文学・歴史館との連携	○くまもと文学・歴史館との連携による情報の発信 【1】 くまもと文学・歴史館における情報発信 文学・歴史館における展示会(常設展、企画展3回、収蔵品展3回)及び漫画常設コーナーの活用等により熊本の文化を発信を行う。また、県立図書館の各展示室の展示コーナー等の情報も発信することで相互の利用を増やしていく。 【実施】 【2】 くまもと文学・歴史館と連携したブックリストの作成 くまもと文学・歴史館のイベントにあわせた関連資料のブックリストを作成し利用者に紹介し、相互利用の促進を図る。 【作成】		・通年 ・随時	・コロナ禍で会期変更を余儀なくされたが、以下の展示会を開催した。収蔵品展「アーカイブスに見るくまもと15」(5/21～7/5) 企画展「『新青年』創刊100年 編集長・乾信一郎と横溝正史」(7/17～9/22日) 企画展「絵図が語るくまもと」(10/8～11/30)、企画展「海と空の間に—石牟礼道子の文学世界」(1/21～3/8)、収蔵品展「アーカイブスに見るくまもと16—1期」(12/23～1/10)を開催した。 ・1班・2班共同で乾真一郎展及び石牟礼展の際にブックリストを作成。文歴カウンター及び各階カウンターで配布。	・左記企画展「『新青年』創刊百年・・・」の開催準備中に横溝正史の240通の書簡資料が発見され、次年度の展覧会を企画、開催準備を進めている。 ・上記を含め、開館5年目を迎える次年度では収蔵品展3回、企画展3回の開催準備を進めている。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2020年度の目標値	2020年度の実績	達成率	評価
貴重資料等の修復点数	4点	30点	16点	26点(維持管理行為含む)	162.5%	S
貴重資料等のデジタル化点数	5,897点	7,000点	6,390点	6251点	97.8%	A
郷土資料の利用提供数	10,252点	11,300点	10,672点	12,046点	112.9%	S
文学・歴史館入館の当館利用への影響度	37%	50%	43%	35.6%	82.8%	A

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%～99%
B	達成率60%～79%
C	達成率60%未満

◆令和2年(2020年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 <sup>4</sup>	熊本の未来を創造する	取組の方向性	1 熊本の次世代を担う子どもの育成に向けた取組の充実	(1) 子ども図書室における取組 (2) 学校や家庭、地域との連携
			2 図書館の充実と発展に寄与するための取組の充実	(1) 図書館を支える人材の育成 (2) 図書館振興に関する情報の発信

令和2年(2020年)度の取組

重点取組事項	年度当初の計画			年度末の総括	
	具体的事業と実践内容	[ 目標 ]	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
①子ども図書室の取組の充実	○ より魅力ある子ども図書室の創造 【1】 <u>魅力ある書架づくり</u> 子どもに使いやすい書架・借りたい本がすぐに見つかる魅力的な書架と展示コーナーを作り、利用者の満足度が高くなる環境づくりを行う。 【作成】		・通年	・書架の見出しの作成(開架と閉架) ・書架棚に空きスペースを作り、手に取りやすいように工夫している。 展示も常時2、3テーマを作成。 ・バリアフリー図書コーナーの設置(点字・手話・LLブック等)	・県立図書館ならではの多方面への資料紹介とレファレンスでも頼られる図書室を目指す。
	○ 参加体験型利用の促進 【1】 <u>定例おはなし会や特別おはなし会の開催</u> (英語も実施) 【実施】 【2】 <u>子ども図書室見学への対応</u> 保育園・幼稚園や小・中学生等の図書館見学を受け入れ利用案内等を行う。 【実施】		・随時 ・随時	・コロナ禍のため、おはなし会は休止中。 ・出水小、砂取小(2年生、4年生)、出水南小、ルンビニー幼稚園からの見学を受け入れた。	・コロナ対策を踏まえてのおはなし会の再開 ・インターンシップ・実習生らの見学時に子ども図書室・視聴覚室等の特色を紹介する。
	○ 市町村図書館や利用者へ向けた選書支援・読書支援 【1】 <u>家庭への選書支援</u> インターネットを利用して、子どもの発達段階に対応した絵本、児童書のリスト等の情報提供を行い、家庭でできる選書サポートを行う。 【情報提供】 【2】 <u>子どもの発達段階に対応したブックリスト等の提供</u> 【作成】		・通年 ・2月まで	・月ごとの展示テーマのリストを作成し、HP上で参照できるようにしている。 ・子ども未来課運営のLINE「聞きなっせAI くまもとの子育て」のへ情報提供。 ・幼児期のブックリストは情報収集中。	・基本図書類の買い替えを行い、県立図書館の役割に応じた貸出に常時備える。 ・絵本・児童書の選書情報が豊富な児童書研究書を紹介し、質の高い選書支援を行う。
②学校図書館への支援の充実	○ 熊本県立図書館指導主事と学校図書館との連携強化 【1】 <u>指導主事による学校図書館訪問</u> 県立図書館指導主事が学校図書館を訪問し、情報の収集や助言、指導を行う。 【年に2回程度】		・9月、12月	・新型コロナウイルス感染症対策のため、未実施。状況を見ながら来年度へ持ち越し予定。 ・11/28(土)天草市読書活動推進協議会(学校対象)に講師として参加	・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実施。実施できない場合は電話やインターネットを通じての相談に対応していく。 ・学校関係者へ子ども文庫以外にも「たのしい絵本展」の周知やレファ協の事例紹介、特別資料、パスファインダーの案内などを当館が研修会場になった時や出張時に周知し、利用促進を図る。
	○ 資料の提供先への広報活動の充実 【1】 <u>学校支援に係るチラシの作成</u> 既存の利用案内と併せて、学校へのメール送信等により周知し、配本、一括貸出、子ども文庫、相互貸借の利用促進を図る。 【メール配信年4回以上】		・6月まで	・芦北町内の全小中学校にチラシ配布を行った。	
③図書館職員等の研修の充実	○ 図書館関係職員等の研修機会の充実 【1】 <u>県立図書館が主催または共催する研修会の実施</u> 【8回 → 10回に】 【2】 <u>肥後っ子いきいき読書環境づくり事業に基づく指導者養成講座の開催</u> 【2回】 【3】 <u>市町村立図書館等の巡回訪問での要望のある内容での研修(再掲)</u> 【4か所】		・随時 ・9月、2月 ・7月、9月、3月	・肥後っ子いきいき読書環境づくり事業に基づく指導者養成講座はコロナ禍のため9月は中止。3月に1回開催	・肥後っ子いきいき読書環境づくり事業に基づく指導者養成講座の開催 【1回】
	○ 県立図書館職員の知識や技能の向上 【1】 <u>外部研修への職員の参加と情報発信</u> 【5回】		・随時	・11月から1月にかけて開催された3つの研修(図書館地区別研修等)に延べ20人が参加。なお、いずれもWeb方式のため、当館で受講。	・新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しつつ、Web方式を含めた研修への参加への検討する。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2020年度の目標値	2020年度の実績(1月時点)	達成率	評価
子ども図書室の貸出冊数	79,264冊	90,000冊	83,000冊	71,135冊	85.7%	A
おはなし会の参加者数	1,415人	1,500人	1,430人	0人	0%	C
子ども文庫の利用件数・貸出冊数【再掲】	26件 7,813冊	35件 10,000冊	30件 8,690冊	15件 3,549冊	50% 40.8%	C C
研修会の実施回数・参加者数【再掲】	8回 450人	16回 800人	10回 500人	1回 40人	10% 8%	C C

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%
B	達成率60%~79%)
C	達成率60%未満